

October 18, 2021

**【前日の為替概況】ドル円、続伸 米小売売上高が予想より強く約3年ぶり高値**

15日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は114.22円と前営業日NY終値(113.68円)と比べて54銭程度のドル高水準だった。アジアや欧州市場で強まった円安の流れがNY市場に入っても継続した。9月米小売売上高が予想より強い内容だったことが分かると、米長期金利の上昇とともに円売り・ドル買いが活発化。22時前に一時114.46円と2018年10月4日以来約3年ぶりの高値を付けた。

ただ、同日の高値114.55円がレジスタンスとして意識されると伸び悩んだ。市場では「17年1月6日の高値114.73円もかなり重要なレジスタンスレベル」との声が聞かれた。23時発表の10月米消費者態度指数(ミンガン大調べ)速報値が予想を下回ったことも相場の重しとなり、一時113.99円付近まで下押しした。もっとも、売りはあくまでポジション調整の域を出ず長続きしなかった。ロンドン16時(日本時間24時)のフィキシングを通過したあとは買い戻しが優勢となり、114.33円付近まで持ち直している。そのあとは114.20円台での取引が続いた。

ユーロドルは3日続伸したものの、上値が重かった。終値は1.1601ドルと前営業日NY終値(1.1597ドル)と比べて0.0004ドル程度のユーロ高水準。日本時間夕刻に一時1.1619ドルと日通し高値を付ける場面もあったが、前日の高値1.1624ドルが目先レジスタンスとして意識されると次第に弱含んだ。ポンドや資源国通貨に対してユーロ安が進んだ影響を受けたほか、良好な米小売指標が相場の重しとなり一時1.1589ドル付近まで下押しした。ユーロ円は7日続伸。終値は132.52円と前営業日NY終値(131.83円)と比べて69銭程度のユーロ高水準。円全面安となった流れに沿って、20時過ぎに132.78円と6月17日以来約4カ月ぶりの高値を付けた。

ドル円が失速するとユーロ円にも売りが出て伸び悩む場面もあったが、下押しは132.31円付近にとどまった。市場では「日本では物価が上昇せず、日銀の金融緩和策の正常化への道筋が見えていない。そのような状況で原油など資源価格が高騰し、円安を加速させている」との声が聞かれた。

代表的な暗号資産(仮想通貨)であるビットコインは大幅に上昇した。対ドルでは一時6万2875ドル台と4月16日以来約半年ぶりの高値を付けたほか、対円では714万円台と過去最高値を更新した。市場では「米証券取引委員会(SEC)がビットコインで運用する初の上場投資信託(ETF)を許可する」との観測が強まっている。

**【本日の東京為替見通し】ドル円の買いトレンド強い、中国恒大集団のデフォルトリスク常に警戒**

本日の東京時間のドル円は、引き続き堅調地合いを維持できるか。先週の値動きを見ても米金利が低下したにもかかわらず、ドル円は堅調地合いを維持した。市場が金利や株価の動きに単純に動意づく地合いではなくなっている。

市場の最大の懸念材料は英国、中国、ユーロ圏でエネルギー問題が深刻になっていることが一つ。原油価格などの高止まりでカナダドル、ノルウェークローネなどの産油国通貨が堅調に推移。原油の決済などでも利用されるドルも買われやすい。また、エネルギー価格の上昇により生産施設の減産が相次ぎ、非鉄金属などの供給不足懸念でコモディティ価格も急騰して、資源が豊富な国の通貨、いわゆるコモディティ通貨の豪ドル、ランドなども底堅い動きを見せている。それに反して、日本は原油価格の上昇による経済的影響も大きく、資源も少ないこともあり、円売り地合いは当面続く可能性が高い。先週12日付時点で、商品先物取引委員会(CFTC)の円先物のポジション状況は2019年5月以来となる円ショートポジションを記録するなど、海外投資家も円売りに傾いている。CFTCのポジションは、2019年と比較すると円ショートは大きくはないことで、円売り余地もまだあるだろう。

その一方で、円の買い戻しが入るリスクも複数あることには注意を払いたい。一つ目は、この数週間に渡って常に話題になっている中国恒大集団のデフォルト(債務不履行)懸念だ。市場は若干この話題は食傷気味にはなっているが、本日から明日にはデフォルトの宣言が行われる可能性も市場では噂されている。また、米連邦準備理事会(FRB)の正副議長の人事問題で、パウエルFRB議長が再任されない場合などは、一時的にドル売りに傾く可能性などもリスク要因としてはある。

なお、本日のアジア時間では7-9月期中国国内総生産(GDP)、9月中国鉱工業生産、9月中国小売売上高などが発表される。GDPは前期比ではプラスになるとの予測は強いが、市場予想を下回った場合などは、ここ最近市場の動きを先導している豪ドルなどにも影響を与えそうなので要警戒となる。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

&lt;国内&gt;

特になし

&lt;海外&gt;

- 11:00 ☆ 7-9月期中国国内総生産（GDP、予想：前期比0.5%／前年同期比5.2%）
- 11:00 ◎ 9月中国鉱工業生産（予想：前年比4.5%）
- 11:00 ◎ 9月中国小売売上高（予想：前年比3.3%）
- 18:30 ◎ クオールズ米連邦準備理事会（FRB）理事、討議に参加
- 21:15 ◇ 9月カナダ住宅着工件数（予想：25.50万件）
- 21:30 ◇ 8月対カナダ証券投資
- 22:15 ◎ 9月米鉱工業生産指数（予想：前月比0.2%）  
◇ 設備稼働率（予想：76.5%）
- 23:00 ◎ 10月全米ホームビルダー協会（NAHB）住宅市場指数（予想：76）
- 23:30 ◎ カンリフ英中銀（BOE）副総裁、講演
- 19日 03:15 ◎ カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、講演
- 19日 05:00 ◎ 8月対米証券投資動向

19日

- 09:30 ◎ 10月豪準備銀行（RBA）理事会議事要旨

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

15日 07:05 ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁

「テーパリングの開始は近い」

「GDP伸び率、21年は5.5%前後・22年が3.5%と予想」

「インフレ動向が大きく変化しない限り、利上げは22年末か23年初頭まで見込まず」

15日 08:07 マックレム・カナダ銀行(中央銀行、BOC)総裁

「カナダのインフレは広範なものではなく、それほど心配していない」

「サプライチェーンの混乱、想定より長引く見込み」

「供給問題を踏まえれば、カナダやIMF加盟国のインフレ率が鈍化するにはやや長い時間がかかる可能性」

15日 15:35 フロスト英内閣府国務相(ブレグジット担当)

「欧州連合(EU)の(北アイルランド議定書の)改定案は根本的に許容できない」

「問題を解決するには大幅な変更が必要」

15日 16:31 ウンシュ・ベルギー中銀総裁

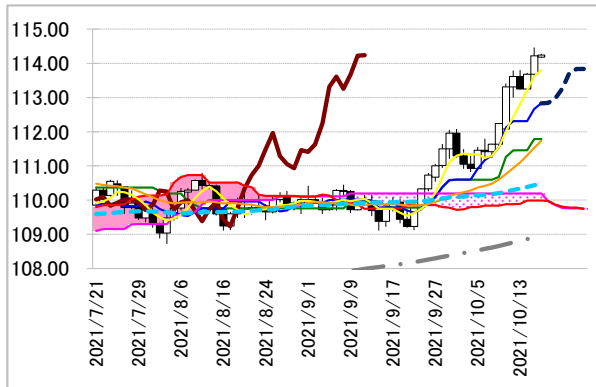
「インフレ上昇は一時的なもの」

「経済は正しい道を進んでいる」

「まだインフレ目標に到達していない」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

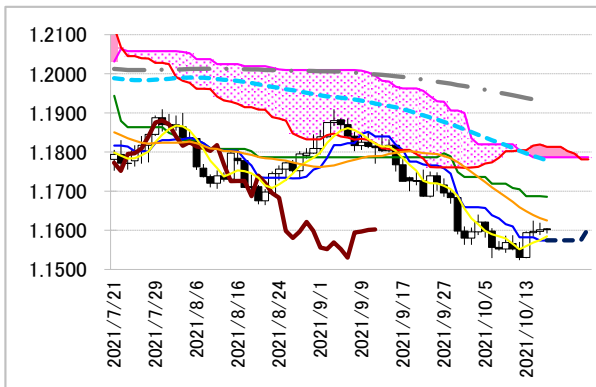


### <ドル円=約3年ぶりの高値圏でいったん下押し展開も>

上影陽線引け。一時 114.46 円と、2018 年 10 月 4 日以来の水準まで上値を伸ばした。

約 3 年ぶりの高値圏とあって、売り圧力を示唆する上ひげをともなう足型を形成。再び上値を狙いにいくにしても、113.80 円付近で上昇中の 5 日移動平均線や先週末の安値 113.65 円前後への下押しを挟むことになるか。底堅さを維持するとみるが、踏みとどまることができなければ、次は 113 円の節目が意識される。

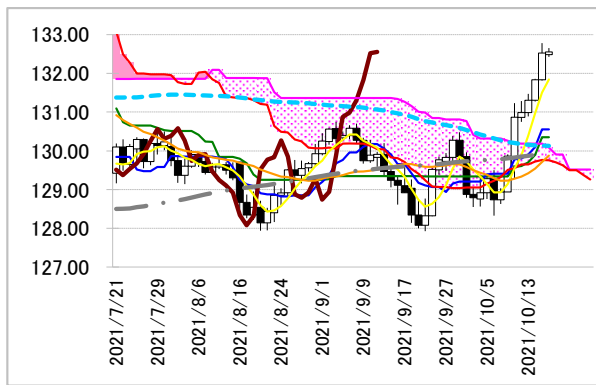
レジスタンス 1	114.73(2017/11/6 高値)
前日終値	114.22
サポート 1	113.65(10/15 安値)
サポート 2	113.00(10/12 安値)



### <ユーロドル=21日線と高値に挟まれたレンジでもみ合い>

上影極小陽線引け。1.1630 ドル台で低下中だった 21 日移動平均線と一目均衡表・転換線と 1.1574 ドルに挟まれたレンジでもみ合った。1.1625 ドル前後へ低下した 21 日線を上回る場面も想定できるが、同レンジでは動きが重い。依然として不安定な状態。だが、現水準で底打ちする見込みの転換線付近で底堅さを示す可能性もあり、同線の切り上がりとともに、戻りを試す展開は想定できる。

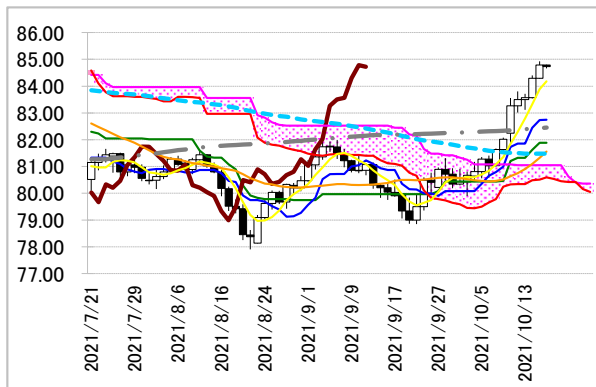
レジスタンス 1	1.1685(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1601
サポート 1	1.1524(10/12 安値=年初来安値)



### <ユーロ円=目先の重さ示唆する足型形成>

上影陽線引け。6 月 17 日以来の、約 3 カ月ぶりの高値 132.78 円まで上値を伸ばした。やや押し戻され、目先の重さの重さを示唆する上ひげをともなう足型を形成。いったん調整の下押しを挟む局面も想定できるが下押しを 131.80 円台で上昇中の 5 日移動平均線や先週末の安値 131.81 円前後にとどめることができれば、上昇の流れは継続していると判断できる。

レジスタンス 1	133.34(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	132.52
サポート 1	131.81(10/15 安値)



### <豪ドル円=調整あっても5日線付近までか>

陽線引け。6 月 11 日以来の 85 円台に差し掛かってきた。達成感による調整の下押しを挟む展開も想定できる。だが、伸び悩む場面が目立たず上値を伸ばした直近の底堅さを考慮すれば、84 円台で上昇中の 5 日移動平均線前後への軽い反落程度にとどまり、上向きの流れを継続するとみる。

レジスタンス 1	85.31(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	84.79
サポート 1	84.18(5 日移動平均線)

